

意識のスペクトル

Spectrum of consciousness

泉洋平
IZUMI Yohei

2016.1.8fri. ~ 1.24sun.

2006年に京都精華大学芸術学部造形学科洋画専攻卒業、2008年に同大学大学院芸術学研究科博士前期課程洋画専攻修士課程修了した泉洋平(いずみ ようへい/1983年・京都府生まれ)は、当初は「視覚」そのものを主題に、おもに鑑賞者の外的(可視・認識される世界)と内的(不可視・認識やイメージの生成のための意識や記憶)との間に起こる相互作用・相対的な変化に注目した作品を制作していましたが、2010年ごろよりその作品をインスタレーションへと展開させています。たとえば、ある作品を制作した泉は、ここで「身体(内)」を規定する空間(外)を設定し、その接点としての「視る」大部分に軸足を置いて制作しています。

2006年に京都精華大学芸術学部造形学科洋画専攻卒業、2008年に同大学大学院芸術学研究科博士前期課程洋画専攻修士課程修了した泉洋平(いずみ ようへい/1983年・京都府生まれ)は、当初は「視覚」そのものを主題に、おもに鑑賞者の外的(可視・認識される世界)と内的(不可視・認識やイメージの生成のための意識や記憶)との間に起こる相互作用・相対的な変化に注目した作品を制作していましたが、2010年ごろよりその作品をインスタレーションへと展開させています。たとえば、ある作品を制作した泉は、ここで「身体(内)」を規定する空間(外)を設定し、その接点としての「視る」大部分に軸足を置いて制作しています。

2006年に京都精華大学芸術学部造形学科洋画専攻卒業、2008年に同大学大学院芸術学研究科博士前期課程洋画専攻修士課程修了した泉洋平(いずみ ようへい/1983年・京都府生まれ)は、当初は「視覚」そのものを主題に、おもに鑑賞者の外的(可視・認識される世界)と内的(不可視・認識やイメージの生成のための意識や記憶)との間に起こる相互作用・相対的な変化に注目した作品を制作していましたが、2010年ごろよりその作品をインスタレーションへと展開させています。たとえば、ある作品を制作した泉は、ここで「身体(内)」を規定する空間(外)を設定し、その接点としての「視る」大部分に軸足を置いて制作しています。

2006年に京都精華大学芸術学部造形学科洋画専攻卒業、2008年に同大学大学院芸術学研究科博士前期課程洋画専攻修士課程修了した泉洋平(いずみ ようへい/1983年・京都府生まれ)は、当初は「視覚」そのものを主題に、おもに鑑賞者の外的(可視・認識される世界)と内的(不可視・認識やイメージの生成のための意識や記憶)との間に起こる相互作用・相対的な変化に注目した作品を制作していましたが、2010年ごろよりその作品をインスタレーションへと展開させています。たとえば、ある作品を制作した泉は、ここで「身体(内)」を規定する空間(外)を設定し、その接点としての「視る」大部分に軸足を置いて制作しています。

2006年に京都精華大学芸術学部造形学科洋画専攻卒業、2008年に同大学大学院芸術学研究科博士前期課程洋画専攻修士課程修了した泉洋平(いずみ ようへい/1983年・京都府生まれ)は、当初は「視覚」そのものを主題に、おもに鑑賞者の外的(可視・認識される世界)と内的(不可視・認識やイメージの生成のための意識や記憶)との間に起こる相互作用・相対的な変化に注目した作品を制作していましたが、2010年ごろよりその作品をインスタレーションへと展開させています。たとえば、ある作品を制作した泉は、ここで「身体(内)」を規定する空間(外)を設定し、その接点としての「視る」大部分に軸足を置いて制作しています。

2006年に京都精華大学芸術学部造形学科洋画専攻卒業、2008年に同大学大学院芸術学研究科博士前期課程洋画専攻修士課程修了した泉洋平(いずみ ようへい/1983年・京都府生まれ)は、当初は「視覚」そのものを主題に、おもに鑑賞者の外的(可視・認識される世界)と内的(不可視・認識やイメージの生成のための意識や記憶)との間に起こる相互作用・相対的な変化に注目した作品を制作していましたが、2010年ごろよりその作品をインスタレーションへと展開させています。たとえば、ある作品を制作した泉は、ここで「身体(内)」を規定する空間(外)を設定し、その接点としての「視る」大部分に軸足を置いて制作しています。

2006年に京都精華大学芸術学部造形学科洋画専攻卒業、2008年に同大学大学院芸術学研究科博士前期課程洋画専攻修士課程修了した泉洋平(いずみ ようへい/1983年・京都府生まれ)は、当初は「視覚」そのものを主題に、おもに鑑賞者の外的(可視・認識される世界)と内的(不可視・認識やイメージの生成のための意識や記憶)との間に起こる相互作用・相対的な変化に注目した作品を制作していましたが、2010年ごろよりその作品をインスタレーションへと展開させています。たとえば、ある作品を制作した泉は、ここで「身体(内)」を規定する空間(外)を設定し、その接点としての「視る」大部分に軸足を置いて制作しています。

瞬く間に起こることや極めて小さなことを引き延ばして体験したいと私は思う。
それは目の前に起こる変化と、それを前にして自分の内側に起こる変化とをつぶさに観察したいためだ。
しかし世界は複雑に絡まったり、滑らかに溶けあったりと観察しやすいとは言えない。
紐解いていくことが必要だ。
今作ではギャラリー空間に放射状のプリズムとしてテグス糸を差し込み、空間に溶け込んでいる光と観賞者の身体を引き剥がし観察しやすくすることを試みた。
「日常の中に溶け込んで、意識の外に置かれているものは何なのか」
これらを考えるきっかけになればと思う。

泉洋平

泉洋平 Izumi Yohei
1983 京都府生まれ

2006 京都精華大学芸術学部造形学科洋画専攻卒業

2008 京都精華大学大学院芸術学研究科博士前期課程洋画専攻卒業

個展

2014 庭に通ず (ギャラリー一壺/京都)

2012 いくばくの繭 (studio90/京都)

2011 a loom (room.A/大阪)

2010 月の標本 (neutron Tokyo/東京)

2009 トけゆくシカク (studio90/京都)

2008 視線の休講 (neutron/京都)

2005 先の他者の視線の先 (7-23ギャラリー/京都精華大学)

グループ展

2013 Drawing Exhibition#4 - ひとすじの行方 (CAP STUDIO Y3/兵庫)

2011 美しき町 (室町アートコート/京都)

2010 平展 (元・立誠小学校/京都)

2007 PIECES (海岸通ギャラリー・CASO/大阪)

2005 目の前を、聞く (ギャラリーフロール/京都精華大学)

Gallery PARC
GRAND MARBLE